

高知県からのお知らせ

全国一の森林率84%を誇っている高知県。その木を使って、風土に合った家を建ててみませんか。県では、「こちの木に住まいづくり助成事業」であなたを応援します。柱や梁等の8割以上に県内産乾燥木材を使うと、量に応じて、最大80万円の補助金がもらえます。今年度はJAS製材品の使用に対する支援を強化しました。

【要件】

高知県内で新築、増築、リフォームを行う木造住宅

- 延べ面積の過半の用途が住宅であること
- 県内産乾燥木材を使用すること
新築・増築の場合…基本部位に80%以上使用すること
リフォームの場合…リフォーム部分の木材に使用すること
- 新築及び増築は瑕疵担保責任保険加入等住宅であること

【対象者】

対象住宅を取得(所有)し、自ら居住する個人(賃貸を目的とするものは除く)

申込や申請の手続きは、建築士か行政書士に委任できます。提出書類には設計や施工に関するものが多く必要なので、建築士に委任するのが一般的な方法です。家を建てるのが決まったら、建築士さんに一度ご相談ください。補助額の算定方法や手続きなど、制度・事業の詳細については高知県庁HPをご覧ください。

【補助額】

①基本部位、その他の部位
県内産乾燥木材(JAS製品)の使用量m³(小数点以下切捨て)×20,000円=補助額①

②基本部位、その他の部位
県内産乾燥木材(JAS製品以外)の使用量m³(小数点以下切捨て)×12,000円=補助額②

③内装木質化(居室に限る)
県内産乾燥木材の使用面積m²(小数点以下切捨て)×2,000円=補助額③

④長期優良住宅加算
長期優良認定木造住宅/10万円加算(地域型グリーン化事業など併用できない事業もあります。)

⑤子育て加算
対象者の世帯に児童手当受給対象となる児童が2人以上いる場合 ③の内装木質化と同額を加算

①+②+③+④+⑤の合計の上限は80万円

こちの木に住まいづくり 検索



高知市で大工をしていた岸本社長は、家族とともに仁淀川町に移住し、茶づくりの道へ。



茶農家の店 あすなろ

住/仁淀川町鷺ノ巣224-6
TEL/0889-36-0188
営/10:00~16:00(L.O 15:30)
冬季営業/11:00~16:00(L.O 15:30)
休/木曜
冬季定休/木曜・金曜・年末年始

※12月~3月中旬は冬季営業時間となっています。

<https://www.asunaro-cafe.com>



この日の取材の様子はこちらから

YouTubeチャンネル
森林環境情報誌 もりりん



茶のパウダーを使ったワッフルやスムージー、茶を練り込んだうどんなど、沢渡茶の魅力をたっぷり味わえるメニューが揃う。

人が集まる憩いの空間、 仁淀の木と人とあ茶、 木の家が持つ魅力をチェック。

快適な暮らし

木の家が持つ魅力をチェック。



天井の梁の間に渡した鳥毛棒(*)は、実際に秋葉まつりで使用されたもの。岸本社長は2014年まで鳥毛ひねりの大役を担った。



香炉の下から火を当てると燻され、茶葉のいい香りが立ちのぼる。



争奪戦になるほど大人気だというテラス席。四季折々、美しい風景を楽しめる。

地域の木材でつくる。

高知市から車で約1時間半。国道33号沿いの仁淀川町鷺ノ巣に、外壁板の黒色と建具や軒裏の白木のコントラストが印象的な建物があります。沢渡集落で作られるお茶や、お茶を生かしたスイーツなどを提供するカフェ茶農家の店「あすなろ」です。お茶を通じて地域おこしを目指す企業「Jハ沢渡」の社長である岸本憲明さんが奥様の実佳さんと共に「沢渡の美しい茶畑の風景を絶やしたくない。」という想いを込め、2018年3月にオープン。ご夫妻が目指したのは、仁淀川町産の木をふんだんに使って建てられた約110平方メートルのこの木造平屋を、地域をつなぐ仁淀の拠点にすることでした。

店内に入ると、床、柱、梁、テーブルや椅子はすべて木。奥の大きな窓から燦爛と差し込む自然光を木の色が反射して、なんとも明るい空間が目前に広がります。客席は約20席。テラス席もあり、大渡ダム湖畔や茶畑などの景観を楽しめます。

心も体も暖かく。

この辺りは、冬に雪が降ることも珍しくない地域。この取材も1月の冷え込みの厳しい日だったにも関わらず、木材は他の素材と比べて保温効果が高いため、室内はとても暖かく保たれています。さらに、木の優しい色を見ているだけでなんだかぬくもりを感じます。「冬でもこの床を裸足で歩き回るお子さんもいます(笑)。木は柔らかく、肌ざわりが優しくて気持ちがいいんですよ。」

ここは、四季を通じて心も体も温めてくれる場所。「この地域だからこそ」「その季節だからこそ」をお客様に感じて帰ってほしいと実佳さん。その1つが、店舗周囲に植えられたお茶の木。春には新芽を摘んで天ぷらにし、お客様に提供します。

仁淀の魅力がたっぷり。

「仁淀の茶畑の将来がこの肩にズシッと(笑)。すごいプレッシャーですが、誰かがやらねば」。そんな岸本社長の原動力は、「仁淀のお茶と伝統を次代へつなぎたい。そのために、地域の人たちが大事に育てた茶製品やこの町のことをもっと知ってもらいたい。」という思いでした。

「茶農家の店あすなろ」がオープンするやいなや、訪れたのは1日約300人のお客さん。「スーパーもコンビニも高校もない地域に?」。これをきっかけに、町民の気持ちはグッと上向いたといいます。

仁淀の木の空間で、仁淀のお茶を。岸本社長の地域への思いが詰まった「茶農家の店あすなろ」には、今日もたくさんの方が訪れます。

(※)秋葉まつりの見どころの一つが、長さ6メートル以上の鳥毛棒を10メートル以上離れた2人が投げ合う鳥毛ひねり。